

コアシサシ「対策必要」指摘したのに

厚木市、豪に「影響なし」

厚木市がオーストラリア大使館から照会を受けたコアシサシ営巣地近くの道路建設の影響について、市が参考意見を聴いた専門家からカラス被害の可能性などを指摘されていたにもかかわらず、「影響はないという意見をいただいた」と回答していたことが12日、明らかになった。専門家は「発言の趣旨と異なり不本意だ」としており、市は「言葉足らずだった」としている。

照会があったのは5月。オーストラリアから飛来する希少な渡り鳥のコアシサシについて、相模川堤防道路の建設計画に伴う群生地保護策を尋ねる内容だった。

市は先月18日に文書で回答。この中で道路建設がコアシサシに与える影響について、「専門家に

お伺いいたしました」として、(中略)特に影響はないという御意見をいただいております」と答え、回答に対する反応はまたないという。市が意見を聴いた専門家は、周辺のコアシサシの生態に詳しい湯河原町立湯河原中学校の室伏友三教諭。

営巣地付近の道路計画 専門家「不本意」

が、道路ができればごみやカラスが増えて営巣地に影響がありうることや、対策の必要性なども伝えた。発言の一部を取り上げて、影響がないと回答されるのは不本意だ」と話す。

回答のうち、道路建設の影響部分を担当した市幹線市道課は「道路完成後の影響やその対策につ

厚木市が道路建設の影響について回答した部分
本市の堤防道路計画に伴うコアシサシの生態への影響について改めて専門家に伺いました
たところ、営巣地は河川敷内で堤防道路から約300メートル離れており、また、すでに中州の形態も出来上がっていることか

ら、特に影響はないという御意見をいただいております。
堤防道路計画の進ちょくにつきましては(中略)具体的な事業計画がまとまった時点で、再度、専門家や関係者の御意見をお伺いし、事業化を考えてまいりたいと存じます。

で、「(市としては)コアシサシの巣園を見守ってまいります」とする表現にとどめるなど、前向きな姿勢を示している。

回答をとりまとめた広報課は「きちんと事実関係を調べ、豪側にも室伏教諭にも誠意ある対応をしたい」としている。